

提 言 書

令和 4 年 2 月 1 日

令和 3 年度水戸市市政モ二タ一

目

次

市政モニター提言	1
Ⅰ「魅力集積型コンパクトシティ・水戸」について	2
Ⅱ「誰もが自分らしく暮らせるまち」について	6
Ⅲ「移住者に選ばれる文化のまち・水戸」について	12
理想のまちの姿及び提言理由等について（要旨）	19
市政モニター活動内容	26
市政モニター名簿	28

テーマ「水戸市の移住・定住促進に向けた取組」

私たち市政モニターは、テーマである「水戸市の移住・定住促進に向けた取組」について、この1年間研究してきました。

その結果、水戸市独自の地域資源が最大限活用された「魅力集積型コンパクトシティ・水戸」、経済的な豊かさと安心できる生活環境のある「誰もが自分らしく暮らせるまち」、広域的な視点から水戸市の強みを活用した「移住者に選ばれる文化のまち・水戸」をつくることが水戸市への移住や定住を促進させる指針になると考えました。

以上を踏まえ、次のとおり提言いたします。

○魅力集積型コンパクトシティ・水戸

～歴史に親しみ、駅周辺で完結できる、豊かなライフスタイルが実現できるまち～

- 【1】「水戸の歴史に市民が親しみ、主体的に学べる環境」があるまち
- 【2】「子育て世代が多く居住する、活力ある中心市街地（水戸駅周辺）」があるまち
- 【3】水戸駅を中心とした、平日・休日を問わず家族で心身豊かに暮らせるまち

○誰もが自分らしく暮らせるまち

～自由・安心・幸せ・豊かさは選べるところからはじまる～

- 【1】「年齢・性別・出身地等の多様性が尊重される環境」があるまち
- 【2】世代やバックグラウンドの関係なく、多様な人々が安心して交流できるまち
- 【3】必要な人に必要な行政サービスが届くまち
- 【4】「安心して子供を産み、育てられる環境」があるまち
- 【5】強い経済力のあるまち

○移住者に選ばれる文化のまち・水戸

～文化に親しみながら、首都圏への通勤・通学ができるまち～

- 【1】首都方面に通勤・通学できる水戸市
- 【2】新幹線があり交通の便が良く、都心にアクセスしやすいまち
- 【3】移住者同士の交流があるまち
- 【4】「芸術文化活動が盛んで、文化的な多様さが保証されている環境」があるまち

I 「魅力集積型コンパクトシティ・水戸」

【1】「水戸の歴史に市民が親しみ、主体的に学べる環境」があるまち

私が理想とする上記【1】のまちは、「市民が水戸の歴史や文化遺産を核とした『水戸人』としてのアイデンティティ意識を持っていることから、水戸市への強い帰属意識が生まれている」ことにより、移住・定住が促進され则认为ます。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことは「弘道館での学びを核とした『水戸人』としてのアイデンティティ意識」です。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については20ページに記載しています。)

【課題】

弘道館における歴史的再現度の高い学びをいつでも体験できるよう、市民団体等(※)と連携して歴史体験教室の充実を図る

※「やさしい論語塾」を開催する偕楽園公園を愛する市民の会等



提言1

以下のような歴史体験教室が開催されるよう、そのような活動を行う団体等と連携を行う。

【目指す歴史体験教室の事業概要】

- ・弘道館等の文化遺産を活用して市民が主体的に水戸の歴史・文化を学ぶ
- ・歴史を忠実に再現する
- ・水戸人のアイデンティティを強く育むため、週一回のペースで学びの場が開催されるもの
- ・本間玄調や小宮山楓軒が民衆の福利厚生に尽力した話等、水戸で誇ることのできる歴史物語をテーマとしたものが開催されるもの

【連携内容等】

- ・県立歴史館・茨城大学などの専門家に時代考証の監修を得る際に必要となる費用の援助
- ・当時使われていた机・和綴じ本・衣服等を再現する際に必要となる費用の援助や情報提供
- ・参加者を集める広報支援等の各種協力
- ・市民団体の活動の持続性向上の観点から、核となって市民団体を運営する市民を養成するための講座を年単位で開催する

写真

(著作権の関係により、掲載関係確認中。)

佐賀藩藩校を舞台にした
「リアル弘道館」(佐賀市)

【2】「子育て世代が多く居住する、活力ある中心市街地（水戸駅周辺）」があるまち

私が理想とする上記【2】のまちは、「車を持たずに居住できる利便性の高い中心市街地（特に水戸駅周辺）があり、子育て世代にとっても楽しく生活できる」ことにより、移住・定住が促進されと考えます。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことは「子育て世代が育児環境面等の生活の負担を感じず水戸駅周辺に居住できること（特に、車を持たずに完結するまち）」です。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

（理想のまちの姿及び提言理由等要旨については20ページに記載しています。）

【課題】 未就学児の通園に関わる負担を解消するため、通園に車を使う必要性をなくす		提言 2 水戸駅周辺居住者が親子共に歩いて通園できる水戸駅周辺（徒歩15分以内）に、保育園、幼稚園を移設または新設する。 また、徒歩圏内にない市内の民間及び公営の保育園、幼稚園に通園しやすくするため、送迎用バスを運行する。
【課題】 周辺施設へのアクセスに係る負担を軽減するため、公共交通機関の利便性を向上する		提言 3 バス運営会社以下に以下の要望を行う。 ・子育て中の親子が楽しめる水戸駅近郊施設（特に少年の森、芸術館、県立歴史館、偕楽園、わんぱくみと）をめぐる周遊バスを創設する。 ・当周遊バスを子どもでも一目でわかるようなデザインの外装とし、他のバスとの違いを分かりやすくする。
【課題】 ノーマイカーライフを送るため、車が必要な時には車を使える環境づくりを実施する		提言 4 水戸駅周辺に居住する者に対し、タクシー（チャイルドシート付）またはカーシェアリングを利用する際の料金への補助制度を創設する。

魅力集積型コンパクトシティ・水戸く歴史に親しみ、駅周辺で完結できる、豊かなライフスタイルが実現できるまち

【課題】

安心して歩ける道路をつくるため、車との接触やベビーカーの転倒の恐れを解消する



提言 5

以下の道路について、ガードレール等を設置するとともに、ベビーカーでもスムーズに歩けるよう歩道の凹凸を解消する。

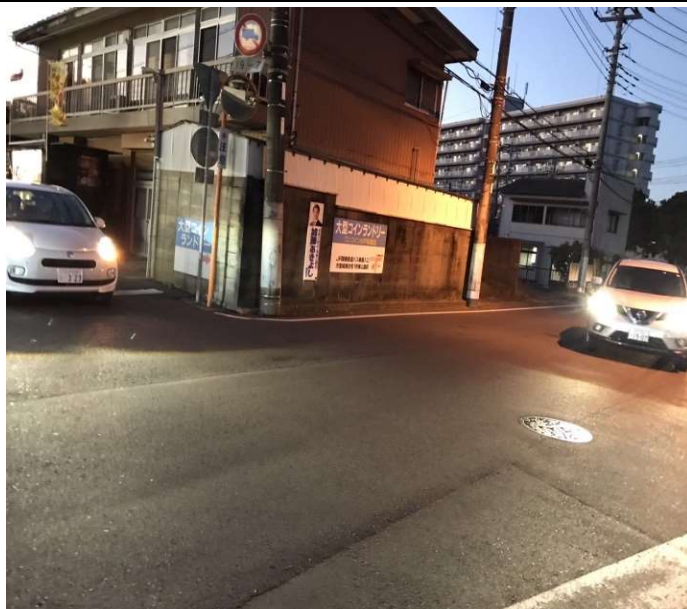
- ・南町1丁目交差点～水戸協同病院前（幹線3号線（南町・千波線））（20ページ地図添付）
- ・水戸協同病院付近～梅香トンネル付近（上市238, 250, 282号線）（20ページ地図添付）
- ・南町のリリー専門学校前～水戸第二高等学校付近（上市5号線）（20ページ地図添付）

提言 6

リリー専門学校及び杉山保育付近の交差点について、歩行者用信号及び横断歩道を設置するよう警察へ要望を行う。（20ページ地図添付）



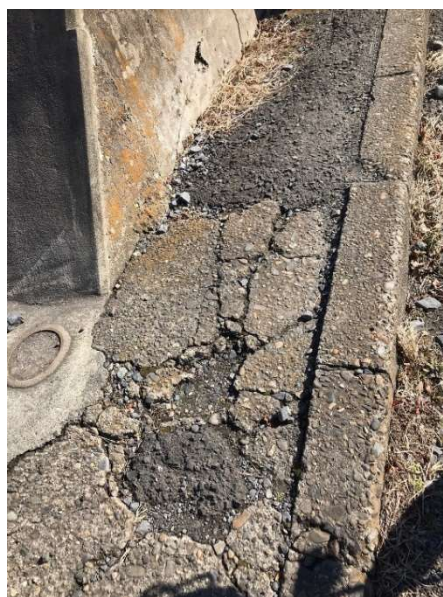
上市250号線デリーヤマザキ付近



杉山保育所付近



上市250号線
リリー専門学校付近



上市250号線
リリー専門学校付近

【3】水戸駅を中心とした、平日・休日を問わず家族で心身豊かに暮らせるまち

私が理想とする上記【3】のまちは、「子育て世帯の生活が水戸駅周辺で完結できるため、まちなかで暮らす子育て世帯が増える」ことにより、移住・定住が促進され则认为します。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことは「駅前にある、子育て世帯にとって魅力的な室内遊戯施設」です。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については21 ページに記載しています。)

【課題】 水戸駅前で子供が遊べる室内施設の場所の確保と運営方針の立案	提言 7 以下の内容を踏まえた乳幼児向け室内遊戯施設をつくる。 ・水戸駅前にある駅ビルの空きスペース等を活用し、広々とした空間で親と子が1日数百円程度で遊べ、託児サービス（有料でも可）もついた施設とする ・乳幼児が遠慮なく走り回り、飛び跳ね全身を動かせるような施設とするため、屋内ジャングルジム、ボールプール、室内用自転車（三輪車）等の遊び道具を備えるものとする ・乳幼児向け室内施設の近く（同フロア等）にフードコートや子ども用品店が出店できるよう、関係機関と連携を図る ・「魅力的な」室内遊戯施設にするために、施設の設置にあたっては水戸市が特定非営利活動法人などに運営を委託し、民間業者（子どものあそびの環境づくり等を行っている、ボーネルンド等）が監修を行うものとする
---	---



Hi タッチらんど・ハレニコ！（日立市）



日立市ホームページから引用

魅力集積型コンパクトシティ・水戸く歴史に親しみ、駅周辺で完結できる、豊かなライフスタイルが実現できるまち

Ⅱ 「誰もが自分らしく暮らせるまち」

【１】「年齢・性別・出身地等の多様性が尊重される環境」があるまち

私が理想とする上記【１】のまちは、「柔軟な生き方が選択できる」ことにより、移住・定住が促進され则认为ます。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことは「各人の自由意志に基づいた選択の自由が尊重される市民生活」です。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については21ページに記載しています。)

誰もが自分らしく暮らせるまちへ自由・安心・幸せ・豊かさは選べるところからはじまる

【課題】 互いのライフスタイルが尊重される環境をつくるため、多様性を認め合える価値観を醸成する		<table><tr><td>提言 8</td><td> 差別や偏見・ヘイトを許容せず、多様な生き方を積極的に肯定することを、以下の趣旨により都市宣言等で明文化する。 ・トランスセクシャル、外国人、障がい者など市内に存在する様々な方の考えやライフスタイルを尊重し合い、皆が安全かつ自由に生きることができるまちづくりに努めること </td></tr><tr><td>提言 9</td><td> ジェンダー／セクシャリティへの理解を深めるため、多様性の専門家（清水晶子氏・東京大学教授、北村紗衣氏・武蔵大学准教授、トミヤマユキコ氏・東北芸術工科大学専任講師、清田隆之氏・文筆家など）を招いて市民を対象にワークショップ等を開催する。 </td></tr></table>	提言 8	差別や偏見・ヘイトを許容せず、多様な生き方を積極的に肯定することを、以下の趣旨により都市宣言等で明文化する。 ・トランスセクシャル、外国人、障がい者など市内に存在する様々な方の考えやライフスタイルを尊重し合い、皆が安全かつ自由に生きることができるまちづくりに努めること	提言 9	ジェンダー／セクシャリティへの理解を深めるため、多様性の専門家（清水晶子氏・東京大学教授、北村紗衣氏・武蔵大学准教授、トミヤマユキコ氏・東北芸術工科大学専任講師、清田隆之氏・文筆家など）を招いて市民を対象にワークショップ等を開催する。
提言 8	差別や偏見・ヘイトを許容せず、多様な生き方を積極的に肯定することを、以下の趣旨により都市宣言等で明文化する。 ・トランスセクシャル、外国人、障がい者など市内に存在する様々な方の考えやライフスタイルを尊重し合い、皆が安全かつ自由に生きることができるまちづくりに努めること					
提言 9	ジェンダー／セクシャリティへの理解を深めるため、多様性の専門家（清水晶子氏・東京大学教授、北村紗衣氏・武蔵大学准教授、トミヤマユキコ氏・東北芸術工科大学専任講師、清田隆之氏・文筆家など）を招いて市民を対象にワークショップ等を開催する。					
【課題】 様々な性的指向／性自認を持つ人が安心・安全に暮らすため、生活する上での不安やストレスを解消する		<table><tr><td>提言 10</td><td> 「性的マイノリティ相談窓口」や「みとちゃんミモザプロジェクト」といった、他者に相談しにくい悩みを抱える者の心身へのストレスや不安から守るような既存の取組を周知徹底する。 周知にあたっては、個人の尊厳を守るために他者のサポートを強く必要とする児童生徒学生に対して効果的に取組が伝わることを意識する必要がある。 周知を効果的にするために、提言 9 のような専門家を招くワークショップ等を行う際に関連付けて取組を周知することや、児童を守る教職員を講演の受講者として招いた上で、講演の演題等にする。 </td></tr></table>	提言 10	「性的マイノリティ相談窓口」や「みとちゃんミモザプロジェクト」といった、他者に相談しにくい悩みを抱える者の心身へのストレスや不安から守るような既存の取組を周知徹底する。 周知にあたっては、個人の尊厳を守るために他者のサポートを強く必要とする児童生徒学生に対して効果的に取組が伝わることを意識する必要がある。 周知を効果的にするために、提言 9 のような専門家を招くワークショップ等を行う際に関連付けて取組を周知することや、児童を守る教職員を講演の受講者として招いた上で、講演の演題等にする。		
提言 10	「性的マイノリティ相談窓口」や「みとちゃんミモザプロジェクト」といった、他者に相談しにくい悩みを抱える者の心身へのストレスや不安から守るような既存の取組を周知徹底する。 周知にあたっては、個人の尊厳を守るために他者のサポートを強く必要とする児童生徒学生に対して効果的に取組が伝わることを意識する必要がある。 周知を効果的にするために、提言 9 のような専門家を招くワークショップ等を行う際に関連付けて取組を周知することや、児童を守る教職員を講演の受講者として招いた上で、講演の演題等にする。					



提言 11	様々な性的指向／性自認を持つ人々の内、性的指向／性自認の悩みを持つ児童生徒が安心して生活・登校できるように、以下の取組を行う。 ・LINE 等の SNS に児童生徒専用の相談窓口を設け、彼らの心身の悩みに対応し、必要な情報を提供する。なお、実施する際は彼らの発達段階に応じた言葉・姿勢で対応することに留意する。 ・水戸市内の公立小学校・中学校に対して、児童生徒たちに制服の着用についての意見を聞き、制服のあり方を検討する。制服着用となった場合には、自身の性自認に基づいて着用する制服を自由に選択することを可能にする。
提言 12	どのような性自認の人でも安全に使用できる公衆トイレ施設を整備する。 ※水戸市の所有する施設内への増設も含む

【課題】
年齢・性別・国籍・障害の有無などの属性による雇用差別の撤廃を目指すため、企業への支援を行う



提言 13	多様性を尊重するような労働環境を整える努力（男性の育休取得状況の改善・女性の管理職登用状況の改善など）を行っている市内の企業を調査し、就職・転職活動者に積極的に紹介する。
-------	--

誰もが自分らしく暮らせるまち／自由・安心・幸せ・豊かさは選べるところからはじまる／

【2】世代やバックグラウンドの関係なく、多様な人々が安心して交流できるまち

私が理想とする上記【2】のまちは、「だれにも居場所があるまち・みと」ということにより、移住・定住が促進されると考えます。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことは「様々な人達が日常の悩みごとを相談し助け合える環境」です。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については21ページに記載しています。)

【課題】

様々な人達が集まり交流できる場をつくるため、まちの縁側（※）の開催を支援する

※まちの縁側とは、「特に理由がなく滞在することもでき、その場にいる人々と交流ができる」地域の拠点のこと。

提言 14

以下のような、まちの縁側が開かれるよう、そのような活動を行う団体等を支援する。

【支援するまちの縁側の活動内容等】

- ・子ども、障害者、外国人、他地域からの移住者など、様々な属性の市民に居場所を提供し、互いに偏見を持たず多様な交流を生むことを趣旨とするもの

- ・一人でも訪れやすい環境づくり（カフェの併設等）を行っているもの

- ・週に5日程度、朝から夕方まで開かれているもの

【支援内容】

- ・活動経費（イベント事業費、施設利用費、人件費等）を補助する。

- ・行政が関わりのある団体等のうち、外国人団体や、障害者を積極的に雇用している企業等への広報の協力

- ・地域の活動団体を集め、専門家（先進団体の運営者など）による、活動の活性化（子どもや障害者など特定のユーザーを対象としている団体が不特定のユーザーに対象を拡大することなど）に関する研修会を開催する。

- ・活動団体の運営者が、利用者（外国人技能実習生・留学生、子ども、障害者など）として想定される人の生活実態や生活上の不安を調査する際には、市が保有する情報を積極的に提供する。

誰もが自分らしく暮らせるまち／自由・安心・幸せ・豊かさは選べるところからはじまる／



ボランティアネットながの「まちの縁側」

ホームページから引用

写真

（肖像権の関係により省略）

港区ホームページから引用（芝の家）

【3】必要な人に必要な行政サービスが届くまち

私が理想とする上記【3】のまちは、「誰もが明日の暮らしに希望がもてる」ことにより、移住・定住が促進され则认为ます。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことは「子育て世代に必要な行政サービスが行き届くこと」です。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。（理想のまちの姿及び提言理由等要旨については22ページに記載しています。）

【課題】 子育て中でも無理なく行政サービスの申請ができるよう、プッシュ型の支援（※）を充実する ※プッシュ型の支援とは 水戸市の職員が市民に対して、業務に関連する行政サービスの情報を能動的に提供することに加え、各種申請手続き等を積極的にサポートすること。		提言 15 水戸市職員が現行の申請主義とプッシュ型の支援の違いについて理解し、プッシュ型の支援をできるようにするための研修を行う。 所属部署を問わず、プッシュ型の支援の理念や、市の職員と市民が接する際のプッシュ型の支援を学ぶことが研修内容の趣旨になる。
		提言 16 以下の申請手続きを簡素化することで、プッシュ型の支援ができるようにする。 ・ファミリーサポートセンターの利用について、現在は内原出張所へ行き、面接を行わないと利用登録ができない。それを新生児訪問の際に併せて登録ができるように制度を改正する。 ・「妊産婦健康相談・妊産婦訪問指導」、「産後ケア」、「養育支援家庭訪問事業」及び「子育て支援相談員」について、電話やメール、ライン内など多様な方法で利用登録や申請等ができるようにする。
		提言 17 子育て世代が必要とする、「妊産婦健康相談・妊産婦訪問指導」、「産後ケア」、「養育支援家庭訪問事業」、「子育て支援相談員」等の子育て支援関係について、以下のプッシュ型の支援を実施する。 ・水戸市公式 LINE のセグメント配信に上記支援情報を追加する。 ・保健師による新生児訪問の中で、水戸市公式 LINE の資料を渡すだけでなく、そのメリットや登録方法などを伝え、登録を手伝い、その場で友達登録してもらう。 ・水戸市公式 LINE の友達登録後に子育て情報アンケートに答えて、子育て情報が入ってくるところまで手伝う。

誰もが自分らしく暮らせるまち／自由・安心・幸せ・豊かさは選べるところからはじまる／

【４】「安心して子供を産み、育てられる環境」があるまち

私が理想とする上記【４】のまちは、「子育てをしている親の心身が豊かであり、子供も豊かに育つことが出来るため、子育て世代に選ばれるまちとなる」ことにより、移住・定住が促進され则认为ます。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことは「産前～産後期間に身体面で負担がないこと」です。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については22ページに記載しています。)

【課題】

家事育児を他者に依頼できるようにするため、支援策を拡充する



提言 18

身体的負担の多い、産前～産後1年以内の方を対象に、民間企業の「家事代行」サービスの初回利用は無料となる制度をつくる。

また、サービスを提供している事業所一覧表（ファミリー・サポート・センターの案内付き）を作成し配布する。作成にあたっては、インターネットや電話等で簡単に利用できることが望ましいことから、そのような企業を奨励するため、事業所一覧表内にその旨を分かりやすく表示する。

なお、育て親により「子供を預けたくない」、「家事は自分でやりたい」等多様な需要があることから、金銭的支援で終わらず、身体的負担を軽減することを重視する点に留意する。

令和3年度発行

おおいた 子育てほっと クーポン

★お子さんの住所

有効期限 年 月 日
(3歳の誕生日の前日)

★お子さんの氏名

お問合せ先

※表紙、裏表紙の利用サービス一覧及び注意事項をご確認ください。

子どもの預かり	保育所等での一時預かり	保健サービス	インフルエンザ予防接種
	病児保育		おたふくかぜ予防接種
	子育てファミリー・サポート・センター（援助会員宅での預かり等）		ロタウイルス予防接種
	子育て短期支援事業 ショートステイ・トワイライトステイ （児童養護施設などでの平日夜間・休日、宿泊を伴う預かり）		フッ化物塗布（保険外診療）
家事援助	家事ヘルパー派遣	親子で体験	母乳マッサージ
	おむつ・ミルクの購入		ベビーマッサージ
読み聞かせ		読み聞かせ	おおいた子ども劇場（会費）
			うみたまご（子どもの入館料）
			市が指定する絵本の購入

大分市の家事援助のサービス

【5】強い経済力のあるまち

私が理想とする上記【5】のまちは、「充実した雇用があり、人が集まる」ことにより、移住・定住が促進され则认为ます。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことは「観光業の活性化」です。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については23ページに記載しています。)

【課題】 水戸市に観光客が集まるようにするため、若い世代からSNSで水戸市の観光の魅力を発信・拡散してもらう		提言 19 若い世代の人々は、綺麗な景色、カラフルなもの、珍しいものといった視覚に訴えるものや簡単に他者と共有できる情報をSNSで発信することが多い。また、SNSの情報を基にそのまちを訪れたりする傾向がある。なお、空いた時間に情報発信できるような簡単なものが好まれる。 以上を踏まえ、若者をターゲットとして「視覚にアピールする」ことをコンセプトとした以下のイベントを関係機関と連携し実施する。実施の際には、偕楽園を通年観光地化して交流人口を増加させるため、チームラボ偕楽園光の祭と重ならない夏～秋に行く。 【イベントの内容】 ・四季の原や田鶴鳴梅林を活用し、水戸をアピールできる地上絵を描く ・千波湖の噴水を活用した噴水ショー（ライトアップや音楽が伴うもの）を行う。情報拡散のため、吹き出る水の高さなど、何らかのことで日本一となることが望ましい ・夏は風鈴、秋は水府提灯を梅の木に飾る
---	---	--

写真

(著作権の関係により、掲載関係確認中。)

地上絵 (浜名湖ガーデンパーク)

写真

(著作権の関係により、掲載関係確認中。)

噴水ショー (ハウステンボス)



地上絵に関するイメージ (夜・梅・祭)

写真

(著作権の関係により省略)

提灯を木に飾るイメージ

誰もが自分らしく暮らせるまちへ自由・安心・幸せ・豊かさは選べるところからはじまる

Ⅲ 「移住者に選ばれる文化のまち・水戸」

【1】首都方面に通勤・通学できる水戸市

私が理想とする上記【1】のまちは、「水戸市から都心へ通勤・通学できることで、都心の人を水戸市に呼び込めるとともに、水戸市にとどまって都心で働き・学び続けられること、また、県南地域へ通勤・通学できることで、水戸市にとどまって県南地域で働き・学び続けられること」により、移住・定住が促進されと考えます。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことの1つ目は「短時間で都心へ通勤・通学できる」ことです。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については23ページに記載しています。)

【課題】

特急電車を利用できるようにするため、利用料金の負担を軽減する

提言 20

18～40 歳などの若い世代を対象に特急料金の補助を行う。

対象者の例は、東京都区部で働いているものの内、親の介護や結婚・妊娠等を理由として茨城県（※）へ里帰りしたい人や、転勤等で東京都区部に通う必要がでた人、東京都区部に通学する水戸市民が挙げられる。

特に、東京都区部から茨城県への移住を考えている若い世代や、東京都区部への転居を検討している若い世代を対象にすることで東京都区部への人口流出対策の効果が高まる。

併せて、取組の効果を高めるため、東京都区部在住者に対して、通勤時間の短さや通勤時の快適性が保たれ、意外と東京都区部から近いことを周知する。周知の手段としては、東京都区部をはじめとする首都圏の不動産屋、住宅メーカーと協力し、不動産屋等から利用者に対して、住宅検討の際に水戸市の情報を伝えることが出来るようにする。

※出身地は他市町村であるが、移住先は水戸市とする者を念頭に置く。



2つ目は、「**県南方面へ通勤・通学できる**」ことです。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については23 ページに記載しています。)

【課題】 各種移動手段を利用して通勤・通学するため、必要となる金銭負担を軽減する		提言 21	つくば市内へ高速バスを利用して通勤・通学する人を対象として、高速バスの利用料金の補助を行う。 特に、県南地域への転居を検討している若い世代を対象とすることで県南地域への人口流出対策の効果が高まる。
		提言 22	つくば市・土浦市以南への通勤・通学者を対象として、水戸駅前の駐車場、駐輪場の利用料金の補助を行う。 駐輪場の利用料金への補助については、水戸駅北口及び南口の自転車等駐車場の利用定期券を購入する際に社員証を提示して減免する。 また、駐車場の利用料金への補助については、領収書等の利用料金が分かるものを基に補助する。

移住者には選ばれる文化のまち・水戸。文化に親しみながら、首都圏への通勤・通学ができるまち。

【2】新幹線があり交通の便が良く、都心にアクセスしやすいまち

私が理想とする上記【2】のまちは、「就職、就学という住居の移動を考えるようなシーンで、「水戸に住む」という選択肢を増やすことや、交通の利便性により地域間の交流が増え、産業の発展、観光客の増加にもつながる」ことにより、移住・定住が促進され则认为ます。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことは「次の整備新幹線の基本計画路線の対象となる」ことです。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。（理想のまちの姿及び提言理由等要旨については23ページに記載しています。）

【課題】

国等が水戸駅を新幹線の停車駅とする計画を立てるようになるため、近隣市町村と協力し国等へ働きかける

提言 23

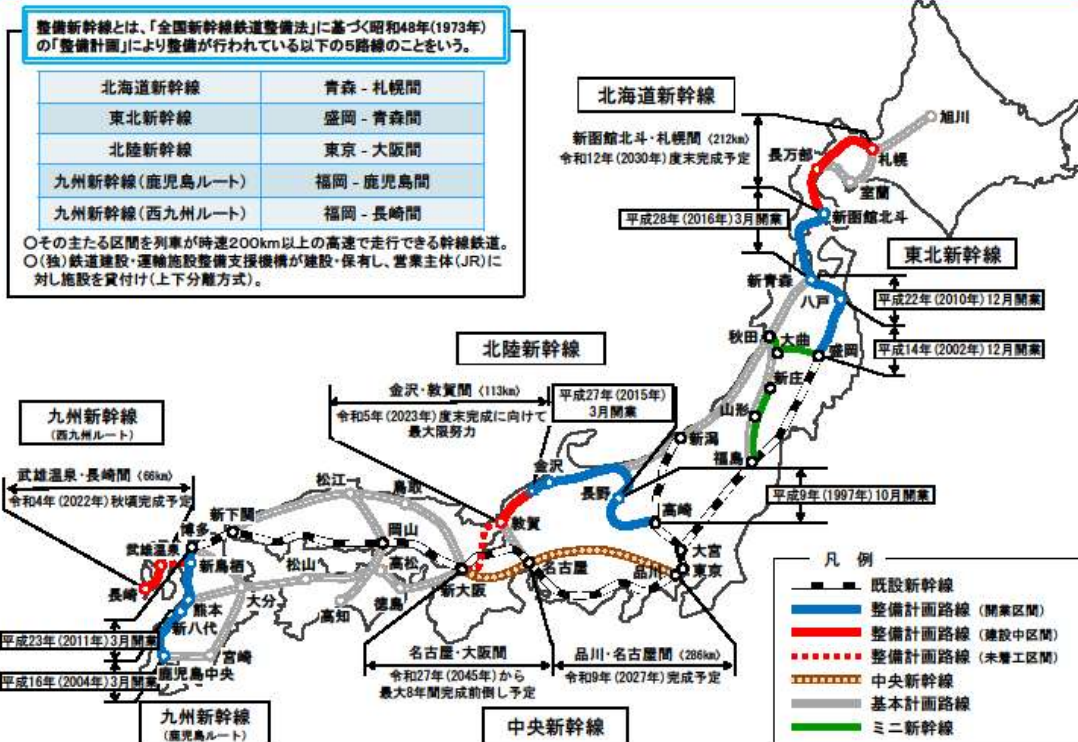
県央地域首長懇話会等、近隣市町村で行われる広域的公共交通ネットワークの構築に関する検討会議において、国等へ新幹線の誘致に関する要望書を提出することを議題として挙げる。

新幹線の開通は大都市や国際空港とのアクセス性が飛躍することにより、国内外からさらに多くの観光客を迎え、県内各地へ周遊させるものであるため、ひたちなか大洗リゾート構想のような近隣市町村の取組をより効果的にするものもある。

議題に挙げる際には、そのような近隣市町村のメリットも説明し、近隣市町村の合意を得ることに配慮する。

全国の新幹線鉄道網の現状

国土交通省



国土交通省ホームページから引用

【3】移住者同士の交流があるまち

私が理想とする上記【3】のまちは、「水戸市の暮らしに対し、明るいイメージをつくる」ことにより、移住・定住が促進され则认为ます。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことの1つ目は「移住者コミュニティの構築」です。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については24ページに記載しています。)

【課題】 移住者同士が交流できる場をつくるため、移住者向けイベントを開催する		提言 24 以下の内容を踏まえた移住者向け交流イベントを開催する。 ・参加者を年代別、属性別（独身、既婚、子どもの有無など）で分けたものと混合の2種類を用意する ・属性別としては、「〇〇県人会」など出身地別のもの、趣味・カテゴリー別など細分化したものも検討し、水戸市内での横の繋がりを強化する ・各関係機関などの力を活用し、参加者がより楽しめるイベントとする
---	---	--

2つ目は、「移住者が水戸で活動しやすい」ことです。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については23ページに記載しています。)

【課題】 移住者（移住前後を含む）が生活に役に立つ情報を受け取れるよう、移住者向けの情報発信を強化する		提言 25 移住者向けのSNSアカウントを作成し、以下のような移住促進に特化した情報配信等を行う。 ・市政情報 ・暮らしに役立つ情報 ・水戸の魅力（まちのおしゃれさ）など ・移住者へのインタビューを通した、カフェなどの個別の店舗に関する情報（地図を付けるなど、どこに店舗があるかを分かりやすく紹介する） ・水戸市や茨城県に関する情報の拡散（リツイート等）
--	---	--

【4】「芸術文化活動が盛んで、文化的な多様さが保証されている環境」があるまち

私が理想とする上記【4】のまちは、「人々が芸術文化に強い関心を抱いており、生涯にわたり絵画・彫刻・文学・演劇・音楽・映像メディア等の質の高い芸術作品や文化人の業績に触れ、学習しています。そのため、文化的に多様なネットワークが水戸市を越えて構築されていることから、人を惹きつける芸術文化的な創造活動が活発に行われて」います。このことにより移住・定住が促進され则认为します。

このまちをつくるために、今回の提言で実現したいことの1つ目は「水戸市にゆかりの深い文化人の業績に触れ、学べること」です。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については24ページに記載しています。)

【課題】

文化人の業績をたたえるため、各種顕彰事業等を実施する

提言 26

深作欣二関係資料(※)や地域で活動する文化的なサークル・団体の力等を活用して、深作欣二生誕100周年となる2030年に以下の内容の「深作欣二生誕100周年事業(仮称)」を実施する。

- ・「310+1 シネマプロジェクト」と連携し、深作監督作品の上映会を新市民会館や水戸芸術館で行う。

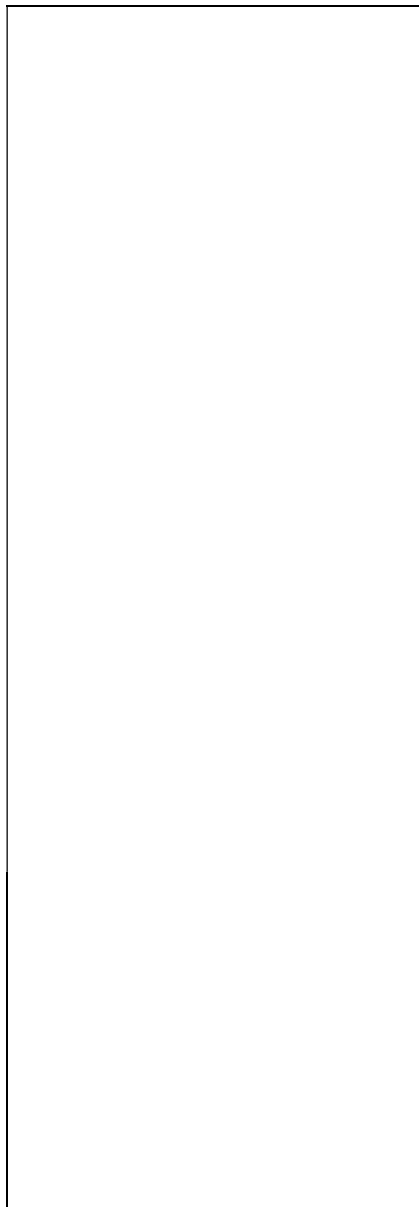
- ・深作健太氏(深作欣二の子、映画監督)を招き講演会を開催し、深作作品の世界観の多面的な魅力(戦争・軍隊批判を中心とした普遍的なヒューマニズムのテーマを保ちつつ、それを質の高い多様な物語として昇華させている点など)を周知する。

- ・上記資料と深作作品の繋がりが分かるように、谷田部智章氏(講座「水戸出身映画監督 深作欣二」の講師)によるワークショップを開催する。

- ・深作欣二の思想や映画作成のノウハウなどが読み取れる「深作欣二特別記念室」内資料群の情報を学識経験者等と協力してとりまとめ、2030年までに冊子ないし書籍を刊行する。

生誕100周年に際しては、全国的に知名度の高い文芸雑誌等で深作関連の特集記事が組まれることも想定されるため、企画提案や情報提供を行う等、民間の出版社と積極的に連携する。

※『深作欣二特別記念室』及び『深作欣二コレクション』内資料群のこと



提言 27	文化振興上重要な新市民会館に図書館資料（※）の常設展ブースを開設し、以下のとおり展示する。 ・深作コレクションについては、蔵書類の中から監督の代表作に特に関連の深い資料を展示する。 併せて、これまで知られていなかった監督の作品構想のプロセスが可視化できる資料を研究したものなどの蔵書の研究成果も展示する。 ・大岡コレクションの場合は、水戸芸術館初代館長である吉田秀和との交流等が可視化できる資料が存在すれば、それらを展示することが望ましい。 ※『深作欣二特別記念室』、『深作欣二コレクション』及び『大岡昇平コレクション』内資料群のこと
提言 28	大岡昇平研究の専門家（立尾真士氏、宮澤隆義氏など）を講師に招聘し、大岡昇平コレクションの水戸市への寄贈を大岡の遺族に勧めたとされる吉田秀和と大岡昇平との関係性等を解説してもらうことを通じて、「大岡昇平コレクション」の文化的価値を学ぶワークショップや講演会を開催する。

移住者に選ばれる文化のまち・水戸へ文化に親しみながら、首都圏への通勤・通学ができるまちへ

【課題】

上記資料に関する研究・調査を行うため、専門的な知見を持つ者を確保する



提言 29

上記資料群の調査・研究に専従する研究者を雇用する。

※会計年度任用職員制度を活用する可能性も視野に入れる。



深作欣二記念室（中央図書館）



深作欣二コレクション（見和図書館）

2つ目は、「皆が生涯にわたり質の高い芸術作品に触れ、学習していること」です。そこでその実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

(理想のまちの姿及び提言理由等要旨については24ページに記載しています。)

【課題】 学術的・文化的価値のあるものを共有し、次世代へ継承するため、図書館蔵書資料の利用促進を図る		提言 30 水戸市の情報発信にSNSを活用し、市内図書館の蔵書情報を定期的に紹介する。 ※水戸芸術館の催事情報の発信と同様の方法による。
		提言 31 任意のテーマ（図書館のほりだしもの資料、ジェンダー／フェミニズム、水戸の歴史など）に即して、図書館の蔵書を選び、紹介するイベントを行う。 講師については、必要に応じ大学に所属する研究者等との連携も視野に入れる。

移住者を選ばれる文化のまち・水戸へ文化に親しみながら、首都圏への通勤・通学ができるまちへ



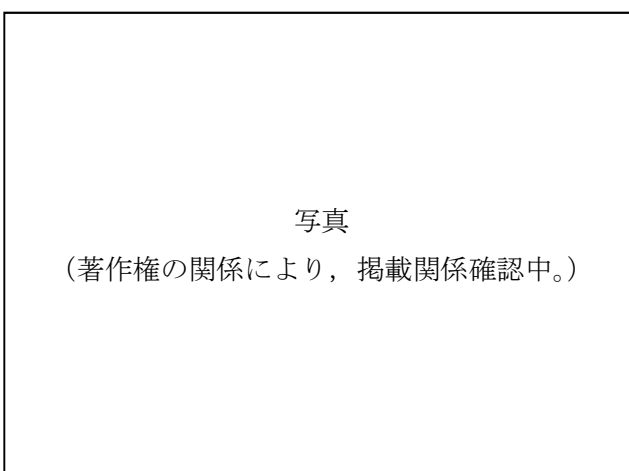
深作欣二記念室内①（中央図書館）



深作欣二記念室内②（中央図書館）



深作欣二記念室内③（中央図書館）



写真

(著作権の関係により、掲載関係確認中。)

木下恵介記念館展示室（浜松市）

理想のまちの姿及び提言理由等について（要旨）

I 「魅力集積型コンパクトシティ・水戸」について

I 「魅力集積型コンパクトシティ・水戸」

【1】「水戸の歴史に市民が親しみ、主体的に学べる環境」があるまち（P2）

- ・理想とする水戸市では、広範な市民層が自ら学びの場を運営し、主体的に水戸の歴史・文化を学ぶ環境が整備されている。これにより、多くの市民が「水戸人」としてのアイデンティティやシビックプライドを持っている。その際には、水戸の先人と現代の自己との連続性を体感するため、過去の忠実な復元がある程度重視されている。また、本間玄調や小宮山楓軒といった、民衆の福利厚生に尽力した水戸の先人達の記憶が、地域で誇ることのできる歴史物語として、広く共有されている。
- ・上記の学びにより、弘道館や水戸城や偕楽園といった文化遺産が多くの市民にとって、「誇るべき我々の遺産」として認識されている。歴史や文化遺産への誇りと帰属意識が醸成されることにより、地域の未来を自ら背負おうとする地域住民が育ち、そうした地域住民による自治活動・公益活動が活発に行われている。
- ・歴史を核として、「水戸人」としてのアイデンティティ意識を深めることは、移住・定住・Uターン人口の増加にも将来的に大きく関わってくる。

○リアル弘道館

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/409129/>

I 「魅力集積型コンパクトシティ・水戸」

【2】「子育て世代が多く居住する、活力ある中心市街地（水戸駅周辺）」があるまち（P3）

- ・自家用車がなくても生活に必要な施設にアクセスできる高い利便性があり、また、子どもと楽しく歩くことができるため、子育て世代（又は世帯）に居住場所として選ばれ長期的に活力がある中心市街地（水戸駅周辺）が理想の姿である。
- ・現状では中心市街地に居住し、自家用車を所有することについて、金銭的な負担はもちろん、敷地不足のために遠方での駐車場確保や機械式駐車場の利用など、物理的にも負担が大きい。
- ・水戸駅周辺は子連れで楽しめる施設や歩いて楽しい街並みがあるため、充実した生活が送れる可能性がある。
- ・提言を実施することで中心市街地への移住・定住が促進され则认为る。

○提言5、6の該当地点



I 「魅力集積型コンパクトシティ・水戸」

【3】水戸駅を中心とした、平日・休日を問わず家族で心身豊かに暮らせるまち（P 5）

- ・私が理想とするまちでは、天候や平日・休日を問わず家族が水戸駅周辺で長い時間過ごしていることから、水戸駅周辺に愛着を持った子どもが大人になった際に、まちなかへの居住を選択することでコンパクトシティが持続的に形成されている。更に、コンパクトシティにより水戸駅前が活性化され、より子連れで過ごしやすい環境となる正の循環を生み出している。
- ・具体的な環境として、小さな子どもが全身を動かして長時間飽きずに遊べる、広々とした室内遊戯施設が水戸駅前にある。そこでは、小さな子どもが遊ぶことができる遊具が提供され、託児サービスも備えられている。それにより、親が小さい子どもを連れて行けない場所（映画館・美術館・芸術館、カルチャーセンター、静かなレストラン等）へ行くことができ、気分転換ができるよう図られている。
- ・室内遊戯施設付近の商業施設にはフードコートや子供用品店が並び、子供を遊ばせる前後で気軽に利用できるようになっている。
- ・上記の施設によって、子育て世帯の生活が水戸駅周辺で完結でき、親子ともに水戸駅前の歴史・文化施設、商業施設のサービスを豊かに享受できるようになる。これにより、子育て世帯のまちなかへの移住・定住を強く推し進めるものとなる。

II 「誰もが自分らしく暮らせるまち」について

II 「誰もが自分らしく暮らせるまち」

【1】「年齢・性別・出身地等の多様性が尊重される環境」があるまち（P 6）

- ・ライフスタイルのあり方のみならず、性志向／性自認の種類、国籍の種類、障害の有無等によって享受できる生活の利便性に偏りが出ないことが理想の姿である。
- ・水戸市の移住・定住人口の将来的な増加を目指すためには、次世代の再生産労働を担うと期待される若年層、特に女性の生活環境の向上を目指す必要がある。
- ・結婚や子育てといった特定のライフプランの選択を陰に陽に強制するような地域の雰囲気は、かえって若年（特に女性）の人口流出の大きな原因となり得ることを踏まえ、民間企業等における女性の雇用環境の改善を促す取組や、結婚・出産をする／しないを含めた個人のライフプランの選択の自由を尊重することの重要性を、教育等を通じて啓蒙していくことが、水戸市への移住・定住の促進に繋がっていくと考えられる。
- ・ジェンダーの多様化により、高校での女子スラックス導入等、制服選択の幅が広がっている。
- ・水戸市立小中学校において、実際に制服を着用する子どもたちに意見を聞き、それを踏まえ実際の学校現場に反映させることが重要である。

II 「誰もが自分らしく暮らせるまち」

【2】「世代やバックグラウンドの関係なく、多様な人々が安心して交流できるまち」（P 8）

- ・どのような人も地域とゆるやかなつながりを持つことができ、安心して過ごすことのできるまちが「ここに住みたい」と思えるまちであり、理想の姿である。
- ・子ども、高齢者、外国人、障害者、他地域からの移住者など、様々な市民が属性を問わず利用できる居場所を提供し、多様な交流が生まれる場となれば、地域への愛着が大きくなる。
- ・属性の垣根を越えた交流によって、多様な視点や情報が行き交い、差別や偏見をなくし、孤立を防ぎ、困ったときに助け合える、豊かで安全な地域づくりができる。

- ・「まちの縁側」は「特に理由がなく滞在することができ、その場にいる人々と交流できる」地域の拠点である。

参考

- ・ボランティアネットながの「まちの縁側」
<http://www.vnetnagano.or.jp/engawa/engawateian.htm>
- ・港区 芝の家
<https://www.city.minato.tokyo.jp/shibachikusei/shibanoie.html>
- ・川崎区地域の縁側づくり要綱（川崎市）
<https://www.city.kawasaki.jp/templates/outline/kawasaki/0000086940.html>



川崎市ホームページから引用

Ⅱ「誰もが自分らしく暮らせるまち」

【3】必要な人に必要な行政サービスが届くまち（P9）

- ・私の理想のまちは、子育て世帯・高齢者・障害のある方・外国につながる人・LGBTQなどに関わらず、誰もが明日の暮らしに希望を持てるまちである。程度に差はあるものの、人は経済・社会的に他者の支援や交流を必要とするが、このまちでは皆に行政サービスが行き届くため、皆の生活の悩みが解消されている。このことから、誰もが安心して生活することができるため、自分の望む暮らしの実現を目指せる環境が整っている。
- ・R4.4に新設される子ども部をただ各部の子どもにかかわる部署を集約した場に留めず、プッシュ型支援を目玉政策として取り入れることで、水戸市が真に子どものために変わっていこうとしていることを示すことができる。そして、プッシュ型支援の仕組みを水戸市が実施していることを広く知ってもらうことで、今の世代、そして未来の世代に充実した支援を期待して水戸を選んでもらい、「移住・定住」を促すことにつながる。
- ・他市町村との差別化を図り、「水戸市を選んでもらう」ためには、福祉制度の多くが採用している「申請主義」型ではなく、プッシュ型の支援を行うことが必要である。

Ⅱ「誰もが自分らしく暮らせるまち」

【4】「安心して子供を産み、育てられる環境」があるまち（P10）

- ・私の理想とするまちは、出産や子育ての負担を解消する支援策が充実していることから、市民が子どもをもうけるにあたり、仕事と家事育児を両立させること、高齢での出産を選択できること、他者との交流を保てることなど、充実したライフプランを自由に選択できる。そのため、子育てへの安心や余裕が生まれ、親としても個人としても幸せに過ごせるまちである。
- ・移住者の獲得は自治体間の競争ともなり得るため、出生数を増やす取り組みは他地域との関係性を考える上でも大変望ましい人口維持の方法である。
- ・女性の社会進出が進み、それに伴い発生している、仕事と家事・育児の両立のための身体的・心理

的負担、晩婚化・高齢出産の負担、キャリア中断のリスクを減らす取組が必要である。

- ・大分市家事援助サービス

<http://www.naana-oita.jp/coupon/index>

Ⅱ「誰もが自分らしく暮らせるまち」

【5】強い経済力のあるまち（P11）

- ・私の理想とする水戸市は、観光産業を中心に強い経済力を持っており、充実した雇用があることから移住・定住が促進されている。
- ・若い世代の人々の特徴としては、自分が見たもの、訪れた場所、食べたものなどの写真をSNSで拡散し、多くの人にその話題性を広げることを楽しみのひとつとしているため、そこに着目することで観光客を増やすことが出来る。

Ⅲ「移住者に選ばれる文化のまち・水戸」

Ⅲ「移住者に選ばれる文化のまち・水戸」

【1】首都方面に通勤・通学できる水戸市（P12）

- ・私が理想するまちは、交通が発展しており、特急電車を利用して水戸から都心へ通勤・通学できること、また県南地域へ通勤・通学できることである。これらにより都心の人を水戸に呼び込み、水戸市の人材を水戸市に留まらせ、移住や定住の促進に繋がる。
- ・水戸市では、77%の子どもが県外に一時的にでも移住しているため、水戸市にとどまって学び・働き続けられる環境を用意することは、定住促進に有効と考える。
- ・今日のコロナ禍において多くの企業・大学でテレワーク・遠隔授業が採用されていることは、水戸市が前進していくまたとない機会なのである。
- ・水戸市は、都内や柏松戸地域よりも住居費が安く、マイホームを購入しやすい。また、水戸市の住居費は、守谷市やつくば市ほど値上がりしていない。
- ・水戸市からは座って通勤できる魅力があり、満員電車ではない快適性がある。
- ・首都方面に通勤・通学する人を支援することは、水戸市への移住によって優秀な人材を離職せずに繋ぎ止めたい雇用主への利益にもなる。
- ・労働者が都心から水戸市へ移住する際、東京の会社に勤務し続ける場合には交通費の増加や出社できない際の会社への損失など、会社へ負担をかけることが想定されるため、その対策を講じることで移住の動機が増える。

○他市の事例

- ・石岡市は定期券用ウィークリー料金券の購入費から、勤務先等から支払われる特急券に対する手当を除いた金額の半額まで助成している。なお、上限額は月額16,000円、年額192,000円である。
- ・越後湯沢市は新幹線通勤定期券購入費用から通勤手当等を控除した額の半額まで助成している。なお、上限額は月5万までであり、新潟～東京の新幹線通勤は10万以上する。

Ⅲ「移住者に選ばれる文化のまち・水戸」

【2】新幹線があり交通の便が良く、都心にアクセスしやすいまち（P14）

- ・私の理想とするまちは、新幹線によって都心に1時間以内でアクセスできるため、水戸市から東京への通勤・通学の時間的負担が非常に少ないまちである。このことから、都心から自然が豊かな郊外への移住を希望する人達が、就職や就学をきっかけに多く移住して来ている。

- ・理想とする県央地域においては、関東県外からもアクセスが良いため関東県外から多くの観光客が集まっており、観光産業を中心に多くの産業が発展している。
- ・「水戸に住む」という選択肢を増やすためには、都心にアクセスしやすい環境づくりが必要不可欠である。そのためには、「都心まで1時間以内」というこの1時間という時間がキーとなっている。

Ⅲ「移住者に選ばれる文化のまち・水戸」

【3】移住者同士の交流があるまち（P15）

- ・私の理想とするまちは、移住者が集まるコミュニティがあることから、水戸市で新たに生活を始める移住者の方でも他者との交流や生活の役に立つ情報に困らず、移住前の生活と同等以上のクオリティを保てるため、水戸市の暮らしに対し明るいイメージを持てるまちである。
- ・水戸の地域コミュニティに参加できていない不安感や水戸から遠隔地のオフィスに通う場合の企業側の理解の必要性への対応が重要である。
- ・コロナ禍およびアフターコロナにおける新しい働き方ニーズの取り込みを狙う。

Ⅲ「移住者に選ばれる文化のまち・水戸」

【4】「芸術文化活動が盛んで、文化的な多様さが保証されている環境」があるまち（P16）

- ・私の理想とするまちは、芸術文化が強い関心を持たれていて、皆が生涯にわたり絵画・彫刻・文学（小説・詩・戯曲・批評等）・演劇・音楽・映像メディア等の質の高い芸術作品や文化人の業績にいつでもアクセスすることができ、文化的な創造を体験する活動に気軽に参加することが可能なまちである。ここにはもちろん、様々な学問の領域に触れ、学習する機会が確保されていることも含まれる。その結果、文化的に多様なネットワークが水戸市を越えて構築されているため、人を惹きつける芸術文化的な創造活動が活発に行われている。
- ・行政は、図書館などの各種文化施設を整備し、そこに保存されている作品・蔵書を含んだ種々の資料類を適切な方法で保存し、次世代に確実に継承していく義務を市民に負っている。
- ・国の報告書から、水戸市が各種コレクションの資料についてプレゼンテーションすることは、水戸は文化的に「何もない」地域であるというネガティブな印象を払拭し、移住を促進させるために重要であると考えられる。

○提言内各専門家の経歴等

深作健太氏（深作欣二の子・映画監督・演出家・脚本家）

谷田部智章氏（講座「水戸出身映画監督 深作欣二」の講師）

立尾真士氏（亜細亜大学経済学部経済学科准教授）

宮澤隆義氏（日本大学法学部総合科目准教授）

○深作欣二コレクションの研究例等

- ・笠原和夫脚本で制作予定であった「実録・共産党」の映像作品化の構想を推測させる書き込みを含んだ資料の研究
- ・「仁義なき戦い」シリーズに戦争・軍隊批判のテーマが存在することを実証し得る資料の研究

○映画監督の資料を活用した、他市町村の文化振興例

- ・静岡県浜松市の木下恵介記念館

<https://keisukemuseum.org/>

- ・愛媛県松山市の伊丹十三記念館

<https://itami-kinenkan.jp/>

○提言 31 の講師やテーマ例について

- ・住本麻子氏（批評家）
- ・すんみ氏（翻訳家）
- ・テーマ例①「柚木麻子『らんたん』に描かれた女性解放運動家たち—山川菊栄を中心に（仮）」、テーマ例②「立花隆の知の世界(仮)」など

市政モニター活動内容

令和3年5月11日（火） 委嘱及び第1回市政モニター会議

【会議内容】

- ・水戸市の状況等についての説明
 - 「水戸市の概要について」 政策企画課
 - 「市政モニター及び今後の流れ等について」 市民相談室
- ・意見交換等
 - 「市政モニターによる自己紹介等」

令和3年6月24日（木） 第2回市政モニター会議

【会議内容】

- ・水戸市の状況等についての説明
 - 「水戸市の移住・定住促進に向けた取組について」 政策企画課
- ・意見交換
 - 「「水戸市の移住・定住促進に向けた取組」について」

令和3年8月28日（土） 第3回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 「小テーマ「（仮称）水戸市らしいまち」について」
 - 「「水戸市の移住・定住促進に向けた取組」について」

令和3年10月23日（土） 第4回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 「小テーマ「（仮称）豊かさと安らぎのあるまち」について」
 - 「「水戸市の移住・定住促進に向けた取組」について」

令和3年12月5日（日） 第5回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 「小テーマ「（仮称）日本で輝く水戸」について」
 - 「「水戸市の移住・定住促進に向けた取組」について」
 - 「提言書について」
 - 「提言の発表について」

令和4年1月14日（金） 第6回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 「提言書（素案）について」
 - 「提言の発表について」

令和4年2月1日（火） 第7回市政モニター会議

【会議内容】

- ・提言書の提出

市政モニター会議の様子

